

サンラムエース施工仕様書（第 5 版）

2026/5
三商株式会社

【標準仕様（木材）】

工程		塗料、その他	希釈割合	塗付け量	施工器具	工程間隔時間
1	素地調整	ほこり、砂などの汚れ、油などの付着物を除去して乾いた清浄な面とした後にサンダー処理（＃180）をしてください。また、フシ処理をしてください。				
2	裏面塗り	サンクラシーYB つや消し	100	70～80g/㎡ 木口 250g/㎡	ウールーラー 短毛・巾	2 時間
3	下塗り 側面塗り	サンクラシーSH-X	100	50±5g/㎡	ウールーラー 短毛・巾	2 時間
4	主材塗り 1 回目	サンフラムエース A 剤	18	300±30g/㎡	ウールーラー 短毛	指触 乾燥
		サンフラムエース B 剤	2.9			
		水	0～1	－		
5	補強繊維張り	専用クロス	－	－	－	－
6	主材塗り 2 回目	サンフラムエース A 剤	18	200±20g/㎡	ヘラ	1.5ヶ月*
		サンフラムエース B 剤	2.9			
		水	0～1	－		
7	上塗り	サンクラシーYB つや消し	100	60±6g/㎡ 木口 150g/㎡	刷毛	2 時間

＊ 別置き試験体によりホルムアルデヒド濃度が下がったことを確認してから工程 7 に進むこと。

本仕様を施工するに当たっては、所定の防火性能が損なわれないように、材料端部及び目地部の処理を適切に行う必要があります。

＜施工のポイント＞

- 上記仕様は木口・木端が現しにならない場合のものです。
- 工程 2 の裏側面塗りと工程 7 の上塗りは同一材料を使用します。
- 工程 2 の裏側面塗り、工程 7 の上塗りは木口・木端にも塗装してください。工程 4～6 は木口には施工しません。木口・木端・裏面への塗付量制限はありませんので、防湿性向上のため、上記の数値を最低量としてできるだけ多く塗布してください。
- 工程 4 は指触乾燥後（指で触れて塗料が手につかなくなったら）、次の工程へ移ってください。
- 工程 6 は水希釈してください。

- 工程 6 は過剰に塗付した後に適性塗付量まで減らした方がきれいに仕上がります。
- 塗料は酸性ですので、攪拌具・塗装工具等は SUS、木材、プラスチック製のものを使用してください。鉄・アルミ等の腐食性金属は使用しないでください。

<施工上の注意>

1. 素地調整

(ア) 木材表面はできるだけ平滑にしてください。木材表面に凹凸があると外観不良の原因になります（写真 1）。平滑であればあるほど美観が向上しますので、可能なら#320～400 のサンダー仕上げとしてください。

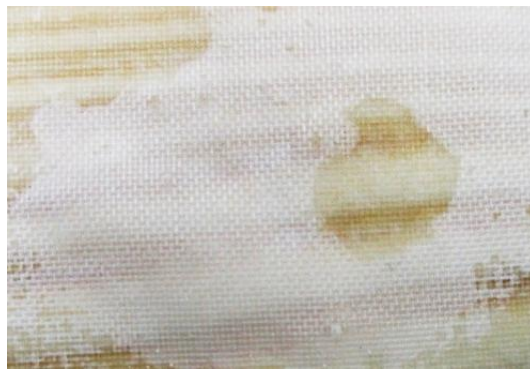


写真 1 サンダーが不十分でクロスが浮いた状態

(イ) フシは埋木またはエポキシ樹脂を充填してください（写真 2）。



写真 2 フシ処理の例（エポキシ樹脂）

2. 主材塗り 1 回目

- (ア) 保護手袋、保護メガネ、保護衣を着用して施工してください。
- (イ) 塗料からはホルムアルデヒドが揮発します。塗装中・乾燥中は扇風機等で強制換気してください。
- (ウ) ウールローラー等で均一に塗付してください。
- (エ) 年輪の褶曲部は塗料が白化する場合があります（写真 3）。防火性能上の問題はありませんが、外観が気になる場合はペーパーなどで削って再塗装してください。主材を塗り重ねても直りません。



写真 3 年輪褶曲部の白化

- (オ) 塗装後は風を当てると塗料が硬化しやすくなります。季節にかかわらず送風養生をお勧めします。

3. 補強繊維張り

- (ア) 主材塗 1 回目の乾燥後に専用クロスを敷いてください。塗装しようとする木材よりもやや大きめに敷くときれいに仕上がります。
- (イ) クロスの継ぎ目はオーバーラップさせてください（写真 4）。壁紙のようにぴったり合わせて切断するためには熟練が必要です。

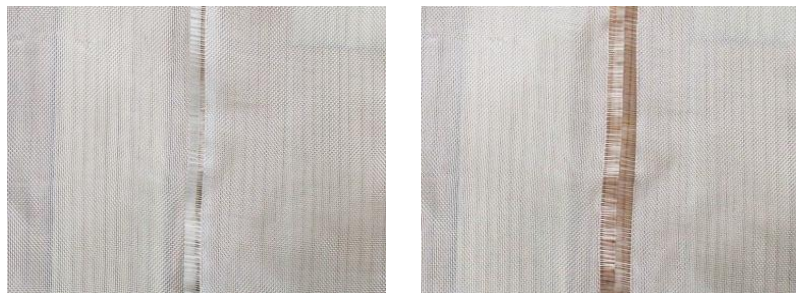


写真 4 クロスの継ぎ目（左：良い例。右：悪い例）

(ウ) クロスはラミナの接着方向に並行に沿わせてください。直行させると継ぎ目が目立ってしまいます（写真５）。

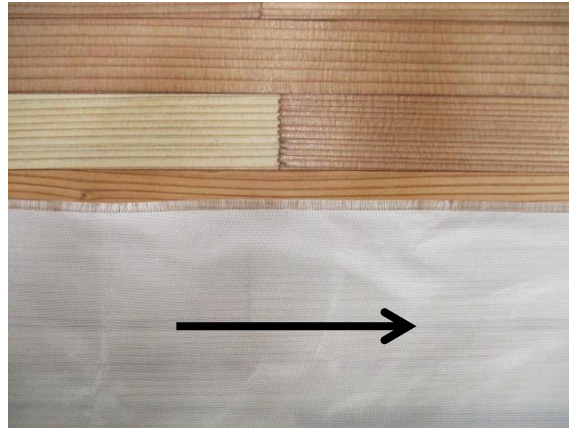


写真５ クロスの沿わせ方向

4. 主材塗り２回目

- (ア) クロスを敷いた面に塗料をまんべんなく配った後、プラスチックローラー・ヘラ等で均一にのばして専用クロスに染み込ませてください。ウールローラー・刷毛等はクロスに引っかかってしまうのでお勧めしません。
- (イ) 外観不良の原因となりますので塗料の液だまりを作らないようにしてください。
- (ウ) ナイフコータやロールコータのような塗装機器の使用をお勧めします。
- (エ) 乾燥後はクロスのはみ出た部分をカッター、はさみ等で切断してください。
- (オ) 目標の塗付量に対して+100g/m²ほど多めに塗付して塗り広げ、専用クロスに塗料が浸み込むまで５分ほど放置してから余分な塗料を除去するときれいに仕上がります。

5. 上塗り

- (ア) 塗料の液だまりがあると白濁する場合があります。
- (イ) 刷毛塗りで木目に沿って塗装してください。上塗りが着色品の場合はウールローラーまたはスプレーで塗装するとムラが出るため使用しないでください。

6. 端部及び目地処理

- (ア) 現しにならない部分には下塗りと上塗りだけを塗装します。
- (イ) 木材の木口が端部に現れている場合は、吸水が大きいため想定よりも多く塗料を消費します。目安としては木口が端部全面に現れている製材や集成材（写真６、７）の場合で下塗り 250g/m²、上塗り 150g/m²です。塗付量制限はありませんので、防湿のためできるだけ多く塗布してください。



写真6 製材の端部（上：木口、下：木端）

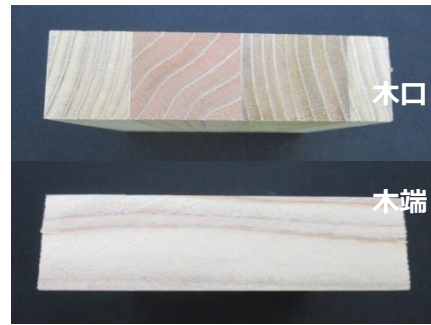


写真7 集成材の端部（左：木口、右：木端）

(ウ) C L Tは認定対象外です。

＜運搬上の注意事項＞

1. 梱包

- (ア) 塗装板2枚を1セットとして、化粧面と化粧面の間に緩衝材（推奨品＝ミラマット；J S P社製）を挟んで、ポリエチレン気泡緩衝材（いわゆるプチプチ）を巻いてください。
- (イ) 段ボール箱で梱包し、周囲に除湿剤（シリカゲル）を3～4個同梱してください。

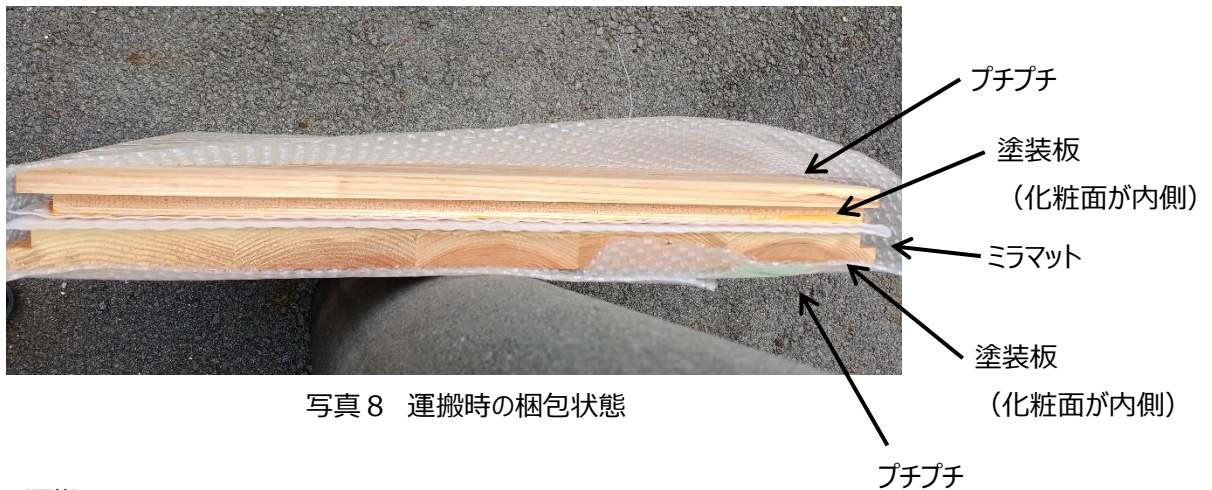


写真8 運搬時の梱包状態

2. 運搬

- (ア) 塗装板を梱包した段ボール箱の積み重ねは2段までとしてください。
- (イ) 運搬時は社内のクーラー25℃設定以下にしてください。